

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「社員同士で子供預かり」
 - 2) 「家庭内在庫の処理」
 - 3) 「ペットにマイクロチップ」
-

1) 「社員同士で子供預かり」

NTT データは社員の子育て支援で、社内で社員同士が交代で子供を預かる試みを行う。自治体などの学童保育が受けられない小学校高学年の子供がいる親が対象で、夏休み中、塾のサマースクールなどに子供を預けなくてすむほか、顔見知りの親に子供を預けられる安心感がある。夫婦で働く家庭は増えており、制度として充実すれば、他企業にも広がることが期待できる。

社内の研修施設を利用し、業務の疑似体験やけん玉サークルの社員による「特別授業」などを予定しており、親は3日間のうち1日有給休暇を取り、4人1組で子供たちの面倒を見る。残り2日間は子供と一緒に出勤し、勤務時間中は別の親に預ける。

今回は、実験を考案した社員がサポートするが、軌道に乗れば、「親だけで運営する仕組みを考える」（NTT データ）という。

将来は1-2週間の長期プログラムを検討する。同社には、乳幼児の子育て支援のための長期休暇制度はあるが、小学生の場合、夏休みには年休を利用して面倒を見たり、塾の有料プログラムを利用しなければいけなかった。

働く親にとって、子供の面倒をどうするかというのは大きな問題である。根本的な国の対策が一番重要だが、このように出来ることから取り組んでいくという姿勢はとても感心できる。子供を持つ親が働きやすい環境づくりがなければ、日本の将来は安泰とは言えないだろう。

2) 「家庭内在庫の処理」

必要と思って購入したものの1-2度使用したきりで捨てるに捨てられないまま家の中に保管されているものなど家庭の不要物が家庭内在庫と言われている。

日本の住宅は収納スペースが限られているので、新しい服が欲しくても収納がいっぱいで買えないという人も多い。そうした不要品を抱えてその処分に困っている人たちのためにスーパーやデパートでは「下取りセール」を行っている。

他には、家電、ファッション用品、楽器、パソコンなど家庭に溜まっている不要品を引き取って、割引クーポンを出して購買意欲を刺激している。

エコ活動によるリサイクル・リユースが増え、不況から中古市場が拡大しているようだ。

3) 「ペットにマイクロチップ」

犬や猫などの体の一部に埋め込むマイクロチップは、迷子になったときなどに専用の機器でチップの数字が読み取られて飼い主に連絡される。

マイクロチップをつける施術ができるのは獣医師だけで、15ケタの数字だけが記録されている縦長のカプセル状のものを、注射針より少し太いくらいのインジェクター（注入器）で首の皮膚の下に埋め込む。チップの代金と施術費で数千円で、47都道府県の専門動物病院にある。

ペットフード協会によると、全国の犬と猫のペットの数は約2680万匹。飼い主の身元情報を管理する「動物ID普及推進会議（AIPO）」にチップを登録している総数は2009年3月末で約21万頭で1%未滿にとどまる。動物愛護管理法では犬や猫などの所有者は自分の所有であることを明確にするためにマイクロチップの装着等を行うべきことを定めている。トラ、ニホンザル、タカ、ワニ、マムシなど哺乳類、鳥類、爬虫類を含め約650種の動物はマイクロチップの埋め込み義務すらある。

ペットを飼う人が増え、人々の意識の変化、法の改正があり、対応するため小売業界の売場も変化している。様々な需要が今後もでてくると言われている。